

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-1	自社 審査会合	2013/11/28	有効性評価	6・7号機と同時発災を仮定する1～5号機の事象の考え方について説明すること。	補足説明資料「10. 他号機との同時被災時における必要な要員及び資源について」参照 (No.審査-12,88,110についても、合わせて回答いたします。)
審査-12	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	要員数の確保について、高圧・低圧注水機能喪失の対処に必要な要員数のみが表示されているが、SFPの冷却等、他号機を含む同時発災の場合に必要な要員を考慮しても、必要な要員が確保できることを説明すること。また、同様にSFPの冷却が必要となるなどの同時発災の影響を考慮しても、水源の容量が確保できることを説明すること	No.審査-1と合わせて回答いたします。 補足説明資料「10. 他号機との同時被災時における必要な要員及び資源について」参照
審査-88	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】水源の確保について、資料では当該号機の炉心のみを考慮しているが、当該号機の使用済燃料プール等や、他号機の同時発災を考慮しても、必要な量が確保できることを説明すること。またその際には、必要に応じて、火災発生に伴う対応での水源の使用も考慮に入れること。	No.審査-1と合わせて回答いたします。 補足説明資料「10. 他号機との同時被災時における必要な要員及び資源について」参照
審査-110	自社 審査会合	2014/11/20	TW(取水機能喪失)	【取水機能喪失】 他号炉での事故の想定について、先行PWRでの議論を踏まえて想定を見直すこと。	No.審査-1と合わせて回答いたします。 補足説明資料「10. 他号機との同時被災時における必要な要員及び資源について」参照
審査-2	自社 審査会合	2013/11/28	有効性評価	PRAの実施結果を踏まえ、重大事故等対策の有効性評価における事故シーケンスグループ抽出等の妥当性、格納容器破損モード等に関する評価の十分性、対策に用いられる資機材や体制整備・手順等に関する妥当性について、6・7号機の特徴を踏まえて検討の上、説明すること。	事故シーケンスグループ選定及び有効性評価の審査にてご説明中。
審査-3	自社 審査会合	2013/11/28	有効性評価	重要事故シーケンス及び評価事故シーケンスに対する対策等のシナリオ(事故状態、使用できる設備等)を想定する際の深層防護の考え方について説明すること。	補足説明資料「28.深層防護の考え方について」参照
審査-4	自社 審査会合	2014/8/26	フィルタベント	希ガス保持による減衰の効果について、放出までの時間を出来るだけ確保したケースとそうでないケースを比較を示して説明すること	補足説明資料「29.希ガス保持による減衰効果について」参照
審査-5	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	【TQUV】主蒸気逃がし安全弁の動作に必要な窒素容量について、長期的な冷却を含めて、安定停止状態に移行するのに十分であることを説明すること。	補足説明資料「34.逃がし安全弁の作動用の窒素の供給について」参照 (No.審査-80,99についても合わせて回答させていただきます。)

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-80	他社 審査会合	2014/10/21	TB	[SBO]全交流電源喪失においては、コンプレッサーが使えないことも踏まえ、弁操作に必要な窒素タンクの容量について説明すること。	No.審査-5と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「34.逃がし安全弁の作動用の窒素の供給について」参照
審査-99	他社 審査会合	2014/10/21	TQUX	【TQUX】高圧窒素ガス供給系及び可搬型窒素供給ガスボンベ系統の設計の考え方(供給対象や使用する時期など)を説明すること。	No.審査-5と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「34.逃がし安全弁の作動用の窒素の供給について」参照
審査-6	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	【TQUV】炉心再冠水時の除熱状態に関して、燃料被覆管表面の熱流束、コブラス水位、一定の高さにおけるボイド率といったパラメータの推移が示せないか検討すること	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.8 原子炉水位(シュラウド内外水位)の推移 図2.1.13 燃料被覆管最高温度発生位置の熱伝達係数の推移 図2.1.14 燃料被覆管最高温度発生位置のボイド率の推移 図2.1.15 高出力燃料集合体のボイド率の推移 図2.1.16 炉心下部プレナム部のボイド率の推移 ※他事故シーケンスも同様の変更を実施 補足説明資料「43.有効性評価解析条件の見直しについて」参照 (No.審査-22についても合わせて回答させていただきます。)
審査-22	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	判断を行う運転員が実際に監視しているパラメータを明確にすると観点から、原子炉内のコブラス水位等を示すこと	No.審査-6と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.8 原子炉水位(シュラウド内外水位)の推移 参照 ※他の格納容器ベントを実施するシナリオについても、同様の変更を実施
審査-7	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	FCVSIによるベント操作について、炉心損傷前のベント中でも、炉心損傷の可能性があれば、停止考えられる。HPACを含めた対策の全体像を示した上で、改めて判断基準を説明すること	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他の炉心損傷前格納容器ベントシナリオにおいて同様に記載済 (No.審査-8,20,23,26,27,29,33,34,91,118と合わせて回答させていただきます。)
審査-8	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	【TQUV】急速減圧については、いわば強制的なLOCAに相当するものであり、慎重な判断が必要と考えられる。HPACを含めた対策の全体像を示した上で、改めて判断基準を説明すること	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 ・2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 に記載を追加しました。 ※他事故シーケンスについても同様 ・補足説明資料「9.原子炉の減圧操作について」参照
審査-20	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	低圧代替注水系(常設)について、各操作時点における復水移送ポンプの必要台数を説明すること	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 ・2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様の変更を実施。 ・MUWC系の系統概略図は、補足説明資料1.3を参照。
審査-23	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	重大事故対策の手順について自主設備等使用できる設備は全て考慮し、実際の事象進展に合わせ、どのように判断するかも含めて、事故対策の手順を説明すること	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他の格納容器ベントを実施するシナリオについても、同様の変更を実施
審査-26	他社 審査会合	2014/10/14	TQUV	耐圧強化ベントを使用する可能性があるのであれば、対応手順に含めて説明すること。	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様。

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-27	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	事象進展に応じてとられる対策が明確になるように、対応手順のフロー図を示すこと	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様の実施。
審査-29	他社 審査会合	2014/10/14	TQUV	事象発生時の対応手順のフローについて、原子炉水位の変化に応じて自動起動する設備を明確にするなど、プラントの状態がわかるように見直すこと。	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様
審査-33	他社 審査会合	2014/10/14	TQUV	事象初期の高圧・低圧注入失敗の判断を、流量計のみで判断することが適切であるのか説明すること。	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様
審査-34	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】 長期的あるいは自主的対応を含めてとりうる対策を全てフローに盛り込み全体像を示すこと。	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様
審査-91	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】耐圧強化ベントは(炉心損傷前ではあるが)使用するのか。使用する場合、フィルタベントとの間の優先順位はどうするのか。考え方を示すこと。	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※事故シーケンスについても同様
審査-118	他社 審査会合	2015/1/13	TW	ベント中に炉心損傷を確認した場合にベント操作を停止することを、事象進展における対応手順のフロー図で明確にすること。	No.審査-7と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.4 高圧・低圧注水機能喪失時の対応手順の概要 参照 ※他事故シーケンスについても同様の実施
審査-9	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	不確実性を含む解析コードの説明や、各種グラフの追加(サブプレッションチェンバー水位、シュラウド内側のボイド率、積算注水流量など)などの資料の充実については、先行電力の事例を参照した上で、速やかに対応を行うこと。	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.9 注水流量の推移 図2.1.14 燃料被覆管最高温度発生位置のボイド率の推移 図2.1.15 高出力燃料集合体のボイド率の推移 図2.1.16 炉心下部プレナム部のボイド率の推移 図2.1.20 サプレッション・チェンバー水位の推移 図2.1.21 サプレッション・プール水温の推移 解析コードについては、「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」の資料にてご説明済みです。 ※他事故シーケンスについても同様
審査-10	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	燃料被覆管温度の評価について、熱伝達関連式の選定などの評価の方法や解析の条件について、その他の標準的な評価手法と比較等により、不確かさを含めて説明すること。	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」の資料にてご説明済みです。
審査-11	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	燃料被覆管温度が制限値1200℃以下であっても、被覆管の破裂が生じる可能性があり、被ばく評価やベント操作の判断に影響するため、燃料被覆管の破裂評価について説明すること	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 添付資料2.1.3 減圧・注水操作が遅れる場合の影響について 参照 (No.審査-36,92についても合わせて回答させていただきます。)
審査-36	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】 被ばく評価に関する感度解析として、炉心損傷を回避できても被覆管が破裂するケースについて評価を行うこと	No.審査-11と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 添付資料2.1.3 減圧・注水操作が遅れる場合の影響について 参照
審査-92	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】代表的なシーケンスにおいて、燃料棒の破裂を考慮した被ばく評価を示すこと。	No.審査-11と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 添付資料2.1.3 減圧・注水操作が遅れる場合の影響について 参照

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-13	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	プラントの停止時の状況判断に要する時間についてシミュレータ訓練の結果等を踏まえて、根拠を説明すること	補足説明資料「31.事象発生時の状況判断について」参照
審査-14	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	評価の期間と安定停止状態の考え方を整理して説明すること。その際には審査ガイドにおける評価期間は、安定停止状態になるまで(少なくとも7日間)を評価するというもので、7日間評価すればよいわけではないことに留意すること	補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照 (No.審査-15,21,70,100,111,112,116,120,121,122,124,134,193についても、合わせて回答させていただきます。)
審査-15	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	FCVSIによるベントを長期間継続することは現実的でなく、安定停止状態に向けてどのように対処するかを説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-21	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	安定停止状態の考え方に関連して、格納容器限界圧力及び温度の設定の考え方を説明すること。その際には時間のファクターを考慮し、長期的性能維持の考え方を含めて説明を行うとともに、地震荷重の組み合わせの考え方とも整合を取ること	No.審査-14と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-70	他社 審査会合	2014/10/21	TB	外部電源や最終ヒートシンクへの熱輸送のための設備の復旧が期待できない場合について、有効性評価の解析終了後の事象の推移について説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-100	他社 審査会合	2014/10/21	TQUX	【TQUX】安定状態(循環冷却)までの流れを達成時期の見直しを含めて示すこと。また、他シーケンスにおいても必要な設備復旧を含む説明を追加すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-111	自社 審査会合	2014/11/20	TW(RHR機能喪失)	【RHR機能喪失】安定停止状態となった後もS/Cの温度は最高使用温度が上回っているが、安定停止状態の考え方の妥当性について説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-112	他社 審査会合	2014/11/20	TW(RHR機能喪失)	【RHR機能喪失】ベント実施後の安定停止状態について、ベント弁を開けた状態のままとなるか説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-116	他社 審査会合	2014/12/9	大LOCA	ベント停止後における長期安定状態の維持について、CV冷却に必要な操作を漏れなく(復旧したRHRSのSP冷却モード運転以外も)説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-120	他社 審査会合	2015/1/13	TW(取水機能喪失)	【取水機能喪失】外部からの注水を継続していく限りS/C水位は上昇し続けることとなっているが、S/C水位の上昇を抑制するよう炉注水の水源切替えを行うつつS/C冷却と行うこと等、安定停止維持が可能となる最終的な状態は示しておくこと。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-121	他社 審査会合	2015/1/13	TW(取水機能喪失)	【取水機能喪失】サブプレッションプール水位が最も高くなる場合について説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-122	他社 審査会合	2015/1/15	ISLOCA	【ISLOCA】有効性評価に関する審査ガイドの「有効性評価においては、原則として事故が収束し、原子炉が安定停止状態に導かれる時点までを評価する」ということをしっかりと示すこと。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-124	他社 審査会合	2015/3/10	中小LOCA	(LOCA時注水機能喪失)安定停止状態について、格納容器限界温度・圧力の議論を踏まえて説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-134	自社 審査会合	2014/11/20	TW(取水機能喪失)	【取水機能喪失】 安定停止状態について、設備の最高使用温度を上回っていないことを説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます ・1.重大事故等への対処に係る措置の有効性評価の基本的な考え方 1.9 参考文献 付録2 原子炉格納容器限界温度・限界圧力に関する評価結果 ・補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-193	他社 審査会合	2015/1/15	中小LOCA	【LOCA時注水機能喪失】 長期安定停止状態のためのRHR復旧について詳細に説明すること。	No.審査-14と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「32.安定状態の考え方について」参照
審査-16	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	原子炉側の解析コードと格納容器側の解析コードとの間のデータ授受の内容について説明すること。 (解析コード説明時)	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」の資料にてご説明済みです。 原子炉側の解析コードと格納容器側の解析コードの間のデータ授受は行っていません。
審査-17	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	長期にわたりS/C経路でベント操作を実施することを踏まえて、S/Cへの非凝縮性ガスの蓄積による悪影響が生じないことを説明すること	補足説明資料「36.格納容器内に存在する亜鉛の反応により発生する水素の影響について」参照
審査-18	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	(東日本大震災時に生じた福島第二でのS/C温度計の端子箱水没による絶縁不良事象を踏まえ、)S/Cの水位増加に関し、S/C内の計装設備等への影響の有無を説明すること。	補足説明資料「37.サブプレッション・チェンバ等水位上昇時の計装設備への影響について」参照
審査-19	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	全給水喪失から原子炉水位低信号によるスクラムまでの評価については、炉心動特性解析が必要と考えられるが、SAFERでどのように解析しているのか説明すること。(解析コード説明時)	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」の資料にてご説明済みです。 スクラム後の事象進展において、炉心動特性の影響は小さく、重要度は低いと整理しています。
審査-24	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	事象発生時の対応手順について、判断基準や判断に必要な監視パラメータを明確にすること	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 表2.1.1 高圧・低圧注水機能喪失時における重大事故等対策について 参照 ※他事故シーケンスについても同様
審査-25	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	ヒートアップ解析に使用する解析コードの選定理由について説明すること。(解析コード説明時)	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」の資料にてご説明済みです。
審査-28	自社 審査会合	2014/10/14	TQUV	【TQUV】格納容器温度の推移について、10時間前に僅かに減少する理由を、評価するモデルの設定を含めて説明すること	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.19 格納容器気相部の温度の推移 参照
審査-30	他社 審査会合	2014/10/14	TQUV	資料3-2別紙7-2の「ベント実施までの代替格納容器スプレイの運用について」について、炉心損傷がない場合に代替格納容器スプレイを制限する理由を詳細に説明すること。	当社は、代替格納容器スプレイについて、炉心損傷の有無にかかわらず、制限を行わないこととしているため、対象外。
審査-31	他社 審査会合	2014/10/14	TQUV	事象発生時の作業と所要時間の表について、解析上考慮しない復旧操作、事故原因故障調査等を含めること。	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.5 高圧・低圧注水機能喪失時の作業と所要時間 参照 ※他事故シーケンスについても同様の変更を実施 (No.審査-85と合わせて回答させていただきます)

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-85	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】格納容器フィルタベント系に係る操作手順について、炉心損傷前後で異なるとしているが、炉心損傷前のベント中に炉心損傷の可能性が生じた場合等を想定しても、必要な窒素供給系や給水系の現場接続等の考慮を含め、適切な対応が可能であることを説明すること。	No.審査-31と合わせて回答させていただきます。 2.1 高圧・低圧注水機能喪失 図2.1.5 高圧・低圧注水機能喪失時の作業と所要時間 参照 ※他事故シーケンスについても同様
審査-32	他社 審査会合	2014/10/14	TQUV	事象発生時の対応手順における残留熱除去系による除熱機能が見込めないとの判断について、判断基準を説明すること。	当社では、格納容器スプレいの継続判断として、RHR復旧を判断条件としていないため、対象外。
審査-37	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】蓄電池の給電評価について、不確かさや自主対策への対応を考慮しても、必要な負荷に供給可能であることを説明すること。	設備審査(14条 全交流電源喪失)で回答させていただきます
審査-38	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】鉛蓄電池の時間率等を考慮した詳細評価を説明すること	設備審査(14条 全交流電源喪失)で回答させていただきます
審査-39	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】RCICの運転継続、最長運転時間、減圧の考え方、対策の優先順位等を含めて安定停止に向けての判断を体系的にまとめて説明すること。	補足説明資料「38.原子炉隔離時冷却系(RCIC)の運転継続及び原子炉減圧の判断について」参照 (No.審査-107,113についても合わせて回答させていただきます)
審査-107	自社 審査会合	2014/11/20	TW(取水機能喪失)	【取水機能喪失】RCICによる注水後、RCICを止めて減圧に移るタイミングの妥当性について説明すること。	No.審査-39と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「38.原子炉隔離時冷却系(RCIC)の運転継続及び原子炉減圧の判断について」参照
審査-113	他社 審査会合	2014/11/20	TW(RHR機能喪失)	【RHR機能喪失】原子炉減圧の前に、RCICによる注水を出来るだけ長く行うという方針の考え方を説明すること。	No.審査-39と合わせて回答させていただきます 補足説明資料「38.原子炉隔離時冷却系(RCIC)の運転継続及び原子炉減圧の判断について」参照
審査-40	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】D/Gが動作していなかった場合に復旧対応を行う等現実的な対応での要員を見積もること。	2.3 全交流動力電源喪失 図2.3.2.6 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)時の作業と所要時間 参照
審査-41	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】ベント準備操作の要員はこれまでの経験を踏まえたものであるか再度整理すること。	補足説明資料「4.重大事故対策の成立性」 資料4-6 格納容器ベント準備操作 参照 (No.審査-47についても合わせて回答させていただきます。)
審査-47	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】フィルタベント実施のため隔離弁を人力操作する場合を含めて要員が足りていることを説明すること	No.審査-41と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「4. 重大事故対策の成立性」 資料4-6 格納容器ベント準備操 参照
審査-42	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】直流の切離作業を詳細に説明し、フローチャート上で示すこと。	2.3 全交流動力電源喪失 ・図2.3.2.5 全交流動力電源喪失時の対応手順の概要 ・添付資料2.3.2.2 蓄電池による給電時間評価結果について 図2.3.2.2-2 直流電源単線結線図(6号炉) 図2.3.2.2-4 直流電源単線結線図(7号炉)
審査-43	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】シールリークの可能性があるか説明すること。	補足説明資料「39.6/7号炉 原子炉冷却材再循環ポンプからのリークの有無について」 参照 (No.審査-78についても合わせて回答させていただきます。)

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-78	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】再循環ポンプのリーク量を評価すること。	No.審査-43と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「39.6/7号炉 原子炉冷却材再循環ポンプからのリークの有無について」参照
審査-44	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】考えられるS/Cの温度成層化の影響について適切に検討した上で今後説明すること。	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて(第5部 MAAP)」 「別添1(補足) 圧力抑制プール(S/C)の温度成層化の影響について」の資料にてご説明済みです。
審査-45	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】各事故シナリオグループにおける重大事故等対処設備の選定理由や考え方を説明すること。	2.3 全交流動力電源喪失の各事故シナリオグループの「事故シナリオグループの特徴、炉心損傷防止対策」にシナリオ選定結果と見るべき対策(評価対象の選定とシナリオ設定)を追記。 (No.審査-67,69,84についても合わせて回答させていただきます)
審査-67	他社 審査会合	2014/10/21	TB	高圧代替注水系(高圧炉心スプレイ系)の考慮の有無については、不確かさ評価の一環で相違を見るのか、そもそも別の事故シナリオとして評価を行うのか、PRAの結果を受けた代表シナリオの選定の際の議論も踏まえて、取扱いを再度整理した上で説明を行うこと。	No.審査-45と合わせて回答させていただきます。 2.3 全交流動力電源喪失 2.3.1 事故シナリオグループに含まれる事故シナリオの相違とその扱いの整理
審査-69	他社 審査会合	2014/10/21	TB	高圧代替注水系(高圧炉心スプレイ系)の位置づけが不明確であり、重要事故シナリオとして何を選定したのか、最も厳しい条件が何なのか、明確となっていない。取扱いを再度整理した上で説明を行うこと。(【高圧注水・低圧注水機能喪失】の場合と同様)	No.審査-45と合わせて回答させていただきます。 2.3 全交流動力電源喪失 2.3.1 事故シナリオグループに含まれる事故シナリオの相違とその扱いの整理
審査-84	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】RCIC、直流電源ともに使えなかった場合の、作業の要員の動き、配置、人数等、具体的な根拠を踏まえて作業の成立性を説明すること。また解析結果への影響についても説明すること。	No.審査-45と合わせて回答させていただきます。 2.3 全交流動力電源喪失 2.3.3 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)+RCIC失敗の場合 2.3.4 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失の場合参照
審査-46	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】有効性の有無の判断基準として、限界温度・限界圧力を用いることの妥当性を説明すること。	1.重大事故等への対処に係る措置の有効性評価の基本的考え方 1.9 参考資料 付録2 原子炉格納容器限界温度・圧力に関する評価結果にて説明済み。
審査-48	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】対応手順のフロー図等に記載のある各設備名は統一して記載すること。	審査資料全般において、許認可記載設備名称で記載を統一
審査-49	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】手動による減圧の開始直後にフラッシングが発生しない理由について、関連パラメータの水位を示す等により説明すること。	2.3 全交流動力電源喪失 図2.3.2.9「原子炉水位(シールド内外水位)の推移」参照
審査-50	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】有効性評価上、重大事故等対策に使用する設備については、漏れなく重大事故等対処設備の表に記載するとともに、フロー図の中でも明確にしておくこと。	2.3 全交流動力電源喪失 ・図2.3.2.5 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)時の対応手順の概要 ・表2.3.2.1 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)時における炉心損傷防止対策参照 ※他事故シナリオについても、同様の変更を実施

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-51	他社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】 FP追加放出量におけるI-131の評価条件で「先行炉等での実測値の平均値に適切な余裕をみた値」としていることを具体的に説明すること。	2.3 全交流動力電源喪失 2.3.2.2 炉心損傷防止対策の有効性評価 (3)有効性評価(敷地境界外での実効線量の評価)の条件参照
審査-52	自社 審査会合	2014/10/16	TQUX	【TQUX】 代替自動減圧回路等のロジック回路及び逃がし安全弁機能に関する設備を詳細に説明すること。	設備審査(46条 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備)にて回答させていただきます。
審査-53	自社 審査会合	2014/10/16	TQUX	【TQUX】 逃がし安全弁の作動数の考え方について説明すること。	補足説明資料「9.原子炉の減圧操作について」参照 (No.審査-98と合わせて回答させていただきます)
審査-98	他社 審査会合	2014/10/21	TQUX	【TQUX】原子炉自動減圧インターロック機能について、インターロック阻止の仕組みを含めて、詳細を説明すること。(追加ロジックにATWS対応ロジック等、今回の事故シーケンスに対する有効性評価には直接関係ないものが含まれている場合は、それを明示すること。)(設備側での説明時)	No.審査-53と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「9.原子炉の減圧操作について」参照
審査-54	自社 審査会合	2014/10/16	TQUX	【TQUX】 操作時間の遅れを考慮した有効性評価の感度解析について今後示すこと。	高圧注水・減圧機能喪失の事故シーケンスにおける減圧操作は、運転員による操作でないため、不確かさはない。 各操作に対する不確かさは、 2.2.高圧注水・減圧機能喪失 添付資料2.2.2 解析コード及び解析条件の不確かさの影響評価について(高圧注水・減圧機能喪失)を参照
審査-55	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】 必要の要員評価における必要要員及び参集要員の表現を見直し、参集要員が事象発生時10時間以内に確実に参集できることを説明すること。	保管場所・アクセスルートの審査会合(H27.8.18)において、ご説明済です。
審査-56	自社 審査会合	2014/10/16	TB	【TB】 ベントを停止している状態で注水しているにもかかわらず、S/C水位が24時間以降低下している理由を説明すること。	2.3 全交流動力電源喪失 図2.3.2.21 サプレッション・チェンバ水位の推移参照
審査-57	他社 審査会合	2014/10/21	TB	重要事故シーケンスにおけるRCIC喪失について、直流電源の枯渇により機能喪失するとの定義を明確にすること。	当社は、内の運転時L1PRA、シーケンス選定、有効性評価「SBO」審査会合資料に明記してあるため、対象外。
審査-58	他社 審査会合	2014/10/21	TW(取水機能喪失)	電源系及び機器冷却系の独立系を高めた高圧炉心スプレイ系について、代替高圧注水系としての位置づけを説明すること。	当該設備は、浜岡原子力発電所の固有設備であることから、当社は対象外。
審査-59	他社 審査会合	2014/10/21	TB	サブプレッションプール水位の挙動について示すこと。	2.3 全交流動力電源喪失 図2.3.2.21 サプレッション・チェンバ水位の推移参照 ※他事故シーケンスについても同様

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-60	他社審査会合	2014/10/21	TB	格納容器代替スプレイ系の運転開始及び停止操作の基準について、炉心損傷前後での判断の相違を踏まえて、全体的な考え方を示すこと。	補足説明資料「33.炉心損傷開始の判断基準及び炉心損傷判断前後の運転操作の差異について」参照 (No.審査-114,115,119,123と合わせて回答させていただきます)
審査-114	自社審査会合	2014/12/9	TW(取水機能喪失)	【格納容器加圧・加温破損】 評価事故シーケンスにおける格納容器内の放射線量の値を具体的に説明すること。(算出の妥当性も含む。)また、COMSの計測範囲の妥当性、時間遅れの観点も含めて、SOPでの炉心損傷の判断の詳細を説明すること。	No.審査-60と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「33.炉心損傷開始の判断基準及び炉心損傷判断前後の運転操作の差異について」参照
審査-115	他社審査会合	2014/12/9	大LOCA	炉心損傷の判断が1000Kでは炉心損傷防止対策を早期にあきらめることとなる。そもそも炉心損傷の定義が整合していないので整理して説明すること。	No.審査-60と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「33.炉心損傷開始の判断基準及び炉心損傷判断前後の運転操作の差異について」参照
審査-119	他社審査会合	2015/1/13		図2.4.2-3の事故シーケンスグループの作業時間と所要時間におけるベント操作の判断に使用している炉心損傷について、炉心損傷なのか燃料破損なのか整理すること。	No.審査-60と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「33.炉心損傷開始の判断基準及び炉心損傷判断前後の運転操作の差異について」参照
審査-123	自社審査会合	2015/1/15	中小LOCA	【LOCA時注水機能喪失】 主要解析条件のうち、代替格納容器スプレイ冷却系による格納容器冷却の解析条件(0.18MPa)の根拠を説明すること。	No.審査-60と合わせて回答させていただきます。 補足説明資料「33.炉心損傷開始の判断基準及び炉心損傷判断前後の運転操作の差異について」参照
審査-61	他社審査会合	2014/10/21	TB	原子炉減圧時の冷却率の制限-55℃/hについて、重大事故時の取扱いを説明すること。	当社は、補足説明資料「9.原子炉の減圧操作について」に記載済であるため、対象外。
審査-62	他社審査会合	2014/10/21	TB	MAAP解析における格納容器代替スプレイ系の停止タイミング(サブプレッションプール水位)の変更の理由について、詳細に説明すること。	浜岡原子力発電所の解析条件変更に対するコメントであることから、当社は対象外。
審査-63	他社審査会合	2014/10/21	TB	格納容器フィルタベント系の運転開始時間について、格納容器フィルタベント系の設備の説明時と異なるため、両者の関係を整理すること。	浜岡原子力発電所の格納容器フィルタベント系の運転開始時間に対するコメントのため、当社は対象外。
審査-64	他社審査会合	2014/10/21	TB	代替高圧注水系(高圧炉心スプレイ系)にて注水する場合についても、格納容器圧力及び温度の変化を示すこと。	2.3 全交流動力電源喪失 2.3.3 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)+RCIC失敗の場合 図2.3.3.19,図2.3.3.20 参照
審査-65	他社審査会合	2014/10/21	TB	発電所構内の西側保管場所における専用燃料タンクの設置について、重大事故等対処施設とする場合、外部火災評価において敷地内可燃物タンクとして考慮を行うこと。(外部火災説明時)	浜岡原子力発電所特有の燃料タンクの設置におけるコメントのため、当社は対象外
審査-66	他社審査会合	2014/10/21	TB	原子炉水位の推移について、事象発生後70分以降の運転員が監視できるシュラウド外水位の回復までを示すこと。	補足説明資料「40.高圧・低圧注水機能喪失及びLOCA時注水機能喪失シナリオにおけるシュラウド外水位の推移について」参照

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-68	他社 審査会合	2014/10/21	TB	ダウンカマ部の入力データを実機に近いREDY相当に修正することだが、上流側の解析コードとのデータの授受の詳細について説明すること。(解析コード説明時)	当社では、左記修正は行っていないため対象外
審査-71	他社 審査会合	2014/10/21	TB	PRAのミニマルカットセットや非信頼度評価に基づいて、機器故障や人的過誤に対して漏れなく対策がとられていることを説明すること。	H27.7.14, 16 審査会合資料: 柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別紙4及び5参照 (補足説明資料26.27に再掲)
審査-72	他社 審査会合	2014/10/21	TB	有効性評価に係る、実態と解析の違いを説明すること。	補足説明資料「41.逃がし安全弁に係る実態と解析の違い及びその影響について」参照
審査-73	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】S/C内の水相の温度成層化現象の影響について、実際のS/C温度計の設置状況を踏まえて説明すること。	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて(第5部 MAAP)」参照 「別添1(補足) 圧力抑制プール(S/C)の温度成層化の影響について」の資料にてご説明済みです。
審査-74	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】可搬型の機器を既存の系統(回路)に接続して使用することについて、互いに悪影響を及ぼさないこと(排他性が確保されていること)を示した上で、弁操作の手順を示すこと。	設備審査(47,51,54,56,57条)で回答いたします。
審査-75	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】可搬型大容量送水ポンプについて、ポンプと海面との高低差等を考慮した上で、期待する機能が十分発揮できることを説明すること。	当該設備は、女川原子力発電所の固有設備であることから、当社は対象外。
審査-76	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】RCICの自動起動の後、S/Cの水位が上がるため、途中でRCICの水源の切り替えに関する判断が必要になると考えられるが、手順を整理して説明すること。	2.3 全交流動力電源喪失 ・2.3.2.2 炉心損傷防止対策の有効性評価 (4)有効性評価の結果 ・補足説明資料「35.全交流動力電源喪失時のサブプレッション・チェンバ・プール水位について」参照。
審査-77	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】代替高圧注水系は、今回クレジットをとるのか示すこと。	2.3 全交流動力電源喪失 2.3.3 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)+RCIC失敗の場合 2.3.3.1(2) 炉心損傷防止対策 参照
審査-79	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】復水貯蔵タンクが建屋の外にあるが、航空機衝突の時は期待できないので、対策を説明すること。	当社K6/7では、復水貯蔵槽は屋内に設置されている。このため、対象外。
審査-81	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】解析においては、格納容器の最高使用温度を超えるが、有効性判断の考え方について説明すること。	格納容器の最高使用温度を超えた場合は、限界温度(200℃)においての有効性を確認しており、限界温度については、審査会合にて説明済み
審査-82	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】補機代替冷却系等の位置について、図の色が識別できない。わかりやすく示すこと。	浜岡原子力発電所の審査資料に対するコメントであることから、当社は対象外

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-83	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】代替高圧注水系の水源である復水貯蔵タンクの耐震性について説明すること。その際、配管による建屋貫通部や、地震時の相対変位も含めて機能への影響について説明すること。	設備審査(45条)又は工事計画の審査で回答いたします
審査-86	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】サブプレッションプール圧力のRCIC運転への影響について、タービントリップ保護インターロック、排気ラインのラプチャディスクの破壊設定圧力との関係を含めて、詳細を説明すること。(設備側での説明時)	当社解析では、原子炉隔離時冷却系が運転している期間に、格納容器圧力は保護インターロック設定値:0.34[Mpa(gage)]まで上昇しないため、対象外。(最大0.31[Mpa(gage)]までの上昇)
審査-87	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】事象発生初期の兆候ベースでの操作から、シナリオを推定しシナリオベースでの操作に移行する際の判断について、説明すること。	補足説明資料「11.運転操作手順書における重大事故対応について」参照
審査-89	他社 審査会合	2014/10/21	TB	評価項目となる重要パラメータについては、解析の内部モデルや入力による不確かさについても説明を行うこと。(解析コード説明時)	「重大事故等対策の有効性評価に係るシビアアクシデント解析コードについて」の資料にてご説明済みです。
審査-90	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】格納容器スプレイを行った場合、サンプルが満水になれば、ベDESTALにも水が入ることについて、詳しい構造とともに説明すること。	補足説明資料「15.格納容器スプレイ時の下部ドライウェル水位上昇の影響について」参照
審査-93	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】耐圧強化ベント系によりベントを実施した場合の被ばく評価も示すこと。	2.3 全交流動力電源喪失 2.3.2 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)の場合 2.3.2.2 炉心損傷防止対策の有効性評価 (4)有効性評価の結果 b.評価項目等 参照
審査-94	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】格納容器フィルタベント系からの放出のみを考慮した被ばく評価を行っているが、非常用ガス処理系による系外放出を考慮した場合の結果が保守的に包絡されることを説明すること。	補足説明資料「42.SGTSによる系外放出を考慮した被ばく評価について」参照
審査-95	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	本文と図で設備名称の整合をとること。	審査資料全般において、許認可記載設備名称で記載を統一
審査-96	他社 審査会合	2014/10/21	TQUX	【TQUX】減圧失敗について、タイムチャートとの関連を説明すること。	フローとタイムチャートについて、減圧に気づかないという人的過誤について、記載の不一致があったことによるコメントであるため、当社は対象外
審査-97	他社 審査会合	2014/10/21	TQUX	【TQUX】減圧前に代替高圧注水系/高圧炉心スプレイ系による原子炉注水が確立した場合における自動減圧インターロックの解除について、対応手順のフローへの反映を行うこと。	2.2 高圧注水・減圧機能喪失 図2.2.3 高圧注水・減圧機能喪失時の対応手順の概要 参照
審査-101	他社 審査会合	2014/10/21	TQUX	【TQUX】複数存在する原子炉水位計について、計測箇所、計測範囲等の相違の説明を行うこと。	補足説明資料「7.原子炉水位及びインターロック概要」参照
審査-102	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】RCIC自動起動失敗後、(L2信号がリセットできない場合に)高圧代替注水系を使用する際のRCICの蒸気ラインの隔離等について、手順に示すこと。	2.3 全交流動力電源喪失 図2.3.2.1~4 全交流動力電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)時の重大事故等対処設備の系統概要図(1/4~4/4) 参照

No.	コメント場所	開催年月日	種別	コメント内容	対応する資料、備考等
審査-103	他社 審査会合	2014/10/21	TB	【SBO】RCICと代替高圧注水系について、24時間運転の可能性、両系統の同等性について説明すること。	2.3 全交流動力電源喪失 2.3.2 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)の場合 2.3.3 全交流電源喪失(外部電源喪失+DG喪失)+RCIC失敗の場合 参照
審査-104	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】代替高圧注水系と代替低圧注水系について、既存の系統との独立性を踏まえ、代替低圧注水系の動作の成立性について説明すること。	当社の高圧・低圧注水機能喪失事故シナリオでは、低圧代替注水系を用いており、既に成立性を確認しているため、対象外
審査-105	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】S/Cの水位が真空破壊弁を超える場合の解析について、非凝縮性ガスはD/Wに移行せず、W/Wに蓄積すると考えられるが、この場合の被ばく評価について説明すること。	当社解析では、高圧・低圧注水機能喪失事故シナリオでは、真空破壊弁が水没しないため、対象外
審査-106	他社 審査会合	2014/10/21	TQUV	【TQUV】真空破壊弁が水没した場合にはD/Wに水が溜まるが、D/W水位の推移はどうか、説明すること。	当社解析では、高圧・低圧注水機能喪失事故シナリオでは、真空破壊弁が水没しないため、対象外
審査-109	自社 審査会合	2014/11/20	TW(取水機能喪失)	【取水機能喪失】 可搬型設備の使用開始を保守的に12時間以降に設定している考え方を説明すること。	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 2.1.4 必要な人員及び資源の評価 (2)必要な資源の評価 a.水源 参照 ※他事故シナリオについても同様の変更を実施
審査-117	他社 審査会合	2015/1/13	TW(取水機能喪失)	燃料被覆管最高温度発生位置のボイド率の推移について、高出力燃料集合体であることを明確にすること。	2.1 高圧・低圧注水機能喪失 2.1.2 炉心損傷防止対策の有効性評価 (3)有効性評価の結果 b.評価項目等 参照 ※他事故シナリオについても同様の変更を実施